

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語演習	
科目基礎情報							
科目番号		0009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		電子メディア工学科		対象学年	4		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		教科書は指定せず、授業担当者の作成したプリントを教材とする。					
担当教員		大島 由紀夫,瀬間 亮子					
到達目標							
的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用できる。また、必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。 建設的な相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、適切に応用できる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、ほぼ応用できる。		的確で論理的な文章を作成するための基礎的表現技術を理解し、応用することができない。	
評価項目2		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、適確に論理構成に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができる。		信頼性を重視して必要な情報を収集・選択・分析し、論理構成に活かすことができない。	
評価項目3		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価するとともに、建設的に助言することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができる。		相互批評・相互添削を通じて、他者の表現を客観的に評価することができない。	
評価項目4		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解し、実践できる。		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができる。		相互批評や推敲を重ねることによって、文章作成過程で留意すべき要件を理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程 E-1							
教育方法等							
概要		20名前後の少人数クラス編成により、到達目標の達成にむけて実践的に学習する。					
授業の進め方・方法		クラスを二つに分け、主として演習形式により、適宜解説的講義を交えて授業を展開する。					
注意点		〈日本語の使い手としてレベルアップする〉ことを心がけてください。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	敬語	敬語への理解	敬語の機能について理解し、適切な敬語の使い方を習得する。		
		2週	敬語	敬語理解の確認	演習問題や短文作成によって、敬語への理解を確認する。		
		3週	小論文(1)	作成準備	与えられたテーマについて論題を決定し、構想を練る。		
		4週	小論文(1)	構成表作成	構成表を作成して教員のチェックを受け、これに基づいて初稿を完成させる。		
		5週	小論文(1)	相互批評	学生同士で、初稿を相互に批評する。		
		6週	小論文(1)	相互批評・添削	学生同士で、初稿を相互に批評する。教員より添削を受ける。		
		7週	小論文(1)	自己評価・小論文完成	相互批評および教員の添削をふまえて、さらに自己評価を行う。それらに基づいて小論文を完成させる。		
		8週	小論文(1)	評価	完成した小論文について教員より評価を受け、成果・注意事項等を理解する。		
	2ndQ	9週	小論文(2)	作成準備	問題文の内容、設定された課題を理解し、要旨・構成表を作成する。		
		10週	小論文(2)	初稿作成	要旨・構成表に基づき、初稿を作成する。		
		11週	小論文(2)	相互批評	学生同士で、初稿を相互に批評する。		
		12週	小論文(2)	相互批評・小論文完成	相互批評および教員の添削をふまえて小論文を完成させる。完成稿について自己評価を行う。		
		13週	自己調書	作成の意義	これまでの経験、これからの進路希望をふまえて自己調書作成の意義を考える。初稿を作成する。		
		14週	自己調書	相互添削	学生同士で、初稿を相互に添削する。		
		15週	自己調書	相互添削・自己調書完成	学生同士で、初稿を相互に添削する。相互添削および教員の添削をふまえて自己調書を完成させる。		
		16週	総括	授業内容の確認	本授業を振り返り、敬語への理解、小論文・自己調書作成の成果と残された課題を確認する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。		3	

			情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	
			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合					
	敬語小テスト	小論文(1)	小論文(2)	自己調書	合計
総合評価割合	10	40	30	20	100
基礎的能力	10	40	30	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0